

平成27年度施策評価シート

基本施策	恵まれた自然を守り活かす		
総合計画での位置付け	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして
	分野	1	自然
主要な計画	・緑の基本計画 ・生物多様性ひだたかやま戦略		
基本施策を実施する背景や課題・目的	<p>・本市は約92%が森林で、山や川、渓谷、峠など変化に富んだ地形となっている。日本の屋根と言われる飛騨山脈(北アルプス)や日本三名山の一つである白山、ライチョウやギフチョウ、ミズバショウ、巨樹、巨木、巨石などの天然記念物や、サクラソウ、ヒメコウホネなどの希少かつ貴重な自然資源が数多く存在しており、市民のボランティア活動などにより保護・保存されている。また、近年は地球温暖化の要因とされている二酸化炭素の吸収源として森林のもつ機能が注目されている。</p> <p>・本施策は、豊かで美しい自然のなかで、飛騨地域の中核都市として利便性の高い都市的サービスを受けながら安全で快適な暮らしを実感できる「すみよさ」のあるまちづくりをすすめるため、恵まれた自然を守り活かすことを目的としている。</p>		

1 概要

施策	施策の内容	これまでの取り組み	担当 部局
1 自然環境の保全	ア 生物多様性の意識の啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・広報たかやまへの普及啓発用チラシの折り込みによる普及啓発の推進や、小中学生への生物多様性副読本の配布による意識の啓発を行った。 ・乗鞍山麓五色ヶ原の森などの地域の自然を活用した自然環境学習やいのちの森づくりの実施により、生物多様性への意識の醸成を行った。 ・外来種駆除に関する市民への周知活動、助成制度創設による自主的な駆除活動への参加促進の他、重要地域等については市が直接駆除を実施した。 	環境政策部
	イ 豊かで美しい森林、里山、緑の保護・保全の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・みどりの保全契約により、市街地にある里山の保全を図った。 ・里山の取得により、無秩序な開発を抑制し市街地から見える緑地の保全を図った。 	基盤整備部
	ウ 自然保護団体などと連携した生物、樹木や植物、地域に残る巨樹・巨木・巨石などの保護・保存活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特色ある生物や樹木、植物などの保全、保護活動を推進するため、蛍やサクラソウ、ササユリ、バイカモ、巨樹巨木などの保護活動を実施している地域団体に対して補助を行った。 ・北アルプス美化の会や乗鞍美化の会との連携による自然観察教室の実施や外来生物の駆除を行った。 ・山の自然学校において地域のNPO団体との連携による移入植物除去を行った。 	環境政策部
		<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境上保護が必要な樹木等を保存樹等に指定し、管理及び育成上必要な経費の一部に対し補助金を交付することで、自然環境の保全及び緑化の推進を図った。 ・文化財指定されている天然記念物等の保存に対し、専門家による助言や保護に要する経費への補助などを行った。 	基盤整備部 教育委員会事務局
2 創緑あふれる空間の	ア 公共施設や道路への植栽の実施、市民とともに樹木を管理する緑のパートナー制度の普及の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・公共的施設及び緑のパートナー登録団体に対し花苗等を配付し、植え付け、清掃、草取り、水やり等の自主的な活動により、緑化推進を図った。 	基盤整備部
	イ 緑化意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・緑と親しむ日などに市民ハイキングを行い、そこで苗木を配付することで都市緑化を推進し、緑化意識の高揚を図った。 ・結婚記念樹として花苗を贈呈し、これを機に花や木を培う事で緑化の推進・保全に対する意識向上を図った。 	基盤整備部
	ウ 地域、家庭、職場、学校などでの花いっぱい運動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・市民憲章推進協議会が主体となって取り組む「花と緑のまちづくり」の推進を図るための花いっぱい運動(花種苗の配布・花のまちづくりコンクールなど)にかかる費用を支援した。 	市民活動部
	エ 温室効果ガスの吸収源となる森づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・林業と建設業の協働の体制づくりを支援し、異業種の連携による森林づくりを促進した。 ・都市部の自治体(東京都千代田区、港区)とカーボンオフセットに関する協定を締結し、間伐等、森林環境の保全を重視した森づくりや地域産材の活用をすすめた。 	農政部 環境政策部

3	自然を活かしたまちづくり	ア	豊富な自然資源の活用の推進	・自然公園等に入り、自然を体感する「自然環境学習」や、里山等をフィールドとして草木や野鳥、昆虫などと触れ親しむ「山の自然学校」の他、関係団体と連携して乗鞍環境ウォーキング、ミニツアーや美化活動、セイヨウタンポポの駆除等の体験を実施した。	環境政策部
		イ	乗鞍山麓五色ヶ原の森などを活用した自然環境学習の充実	・乗鞍山麓五色ヶ原の森を拠点とし、市内各地の自然公園等において、授業の一環としてガイドによる専門的な説明を受けながら地域の自然を体感する「自然環境学習」を行った。	環境政策部
		ウ	自然案内人(インタープリター)の育成・活用の推進	・平成23年度まで、自然及び環境問題について指導できる人材育成及びその事業運営を図るため高山市環境教育事業推進補助を行った。 ・自然環境学習実施時における自然案内人(インタープリター)の活用を行った。また、乗鞍山麓五色ヶ原の森の案内人に対する研修などを行った。	環境政策部
		エ	関係機関と連携した自然とのふれあいや自然を学ぶことができる場の整備	・岐阜県などとの連携による中部北陸自然歩道の整備や北アルプス飛騨側登山道維持連絡協議会との連携による登山道の整備を行った。	環境政策部
		オ	水と親しむ場の整備	・河川清掃や草刈りを行うことにより、市民のみならず観光客にも良好な河川環境を提供した。 ・河川草刈り、清掃、美化業務の委託を実施した。	基盤整備部
		カ	流域市町村と連携した河川環境の保全	・日本の心のふるさとを守り育てる飛越協議会において、神通川をはじめとする河川流域の市町村が連携し、飛越地域が有する自然や文化の魅力発信等を行った。(河川環境の保全と直接的なつながりはない)	企画管理部

2 指標の推移

指標名	単位	関連 施策	好まし い 方向	H21	H22	H23	H24	H25	H26	目標
いのちの森づくりへの参加者数	人	1-ア	↑	—	—	131	800	312	127	1,000
自然環境学習への参加校数	校	1-ア 3-ア 3-イ	↑	5	11	12	20	13	19	32
自然環境学習への参加児童数	人	1-ア 3-ア 3-イ	↑	456	950	805	1,297	1,164	1,367	1,800
山の自然学校参加者数	人	1-ア 3-ア	↑	71	84	55	107	202	124	180
里山購入面積	m2	1-イ	↑	15,000	9,300	33,316	2,062	1,800	23,491	60,000
天然記念物の保護件数	件	1-ウ	→	1	2	2	2	1	2	2
花いっぱい運動参加団体数	団体	2-ウ	↑	68	108	122	129	130	128	140
都市部とのカーボンオフセット事業 による二酸化炭素吸収量	t-CO ₂	2-エ	↑	—	—	—	96.04	120.26	91.62	78
間伐実施面積	ha	2-エ	↑	1,550	1,471	1,597	1,748	1,109	1,006	2,000
間伐・除伐・枝打ち等実施面積 (市補助対象事業)	ha	2-エ	↑	730	430	399	266	178	248	500
高山市環境教育事業推進補助金 交付額	円	3-ウ	↓	3,000	3,192	3,831	0	0	0	—
河川清掃回数	回	3-オ	↑	4	4	4	4	4	4	4
緑と親しむ日等に実施したイベント 数	日	5-イ	↑	3	3	3	3	2	3	3
緑と親しむ日等に実施したイベント 参加人数	人	5-イ	↑	1,124	818	989	684	681	835	1,000

3 市民アンケートの結果

		現在の「満足度」		今後の「重要度」		市民満足度を高めるために 改善等を行う優先度	
H21	点数	62.0	(平均) (54.6)	79.9	(平均) (79.7)	Ⅱ	やや高い
	順位	42施策中 7 番目		42施策中 22 番目			
H25	点数	66.5	(平均) (56.9)	80.7	(平均) (81.8)	Ⅳ	低い
	順位	43施策中 6 番目		43施策中 27 番目			
H27 (今回)	点数	62.4	(平均) (56.0)	79.7	(平均) (81.2)	Ⅳ	低い
	順位	43施策中 9 番目		43施策中 26 番目			

4 一次評価(担当部局による評価)

担当部局		企画管理部	
施策	七次総合計画における検証(成果や課題)		今後の方向性
3	自然を 活かす まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 日本の心のふるさとを守り育てる飛越協議会における取り組みにより、飛越地域の自然や文化の魅力発信、飛越地域の交流促進等が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然資源を守り活かしながら地域の活性化が図られるよう、引き続き流域市町村等と連携して取り組む。

担当部局		市民活動部	
施策	七次総合計画における検証(成果や課題)		今後の方向性
2	緑あふ れる 空間の 創出	<ul style="list-style-type: none"> 毎年多くの団体や事業所等から花の種や苗の配布申し込みがあり、地域や職場、学校などで花飾りが定着してきている。 支所地域の地域振興特別予算による花いっぱい運動の終了に伴い、他の花かざり関係事業を含め、全市的な取り組みとして事業の見直しが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 全市的な取り組みとして、花かざり関係事業の整理を行い、引き続き市民憲章推進協議会の取り組みを支援する。 まちづくり協議会の主体的な取り組みを促進する。

担当部局		環境政策部	
施策	七次総合計画における検証(成果や課題)		今後の方向性
1	自然環境の 保全	<ul style="list-style-type: none"> 小中学生を対象とした事業や取り組みは広まりつつあるが、類似する活動を行っている民間団体と連携し、更に広く市民を対象とした自然環境教育の推進が必要である。 国、県補助など、財政的負担軽減の検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会や各種民間団体と協力のうえ、環境教育活動の積極的な推進を図る。 国、県の補助金の活用や民間団体との連携を図り、市の財政的負担の軽減を図る。 外来生物防除にかかる更なる普及啓発と防除講習会の開催などにより市民参画を働きかける。
2	緑あふ れる 空間の 創出	<ul style="list-style-type: none"> 千代田区との森林整備(カーボンオフセット)協定により、平成24年度より一之宮町地内で間伐等を実施した。 「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度」の更なる活用が図られるように関係機関への働きかけが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 森林のCO2吸収量の拡大を図るため、千代田区や港区との更なる連携を図るとともに高山産の木材流通の促進が図られるように積極的なPRや関係機関への働きかけを行う。
3	自然を 活かす まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境学習や山の自然学校などの実施により、市内各地での自然環境教育を行った。 小中学生などを対象とした取り組みが広まりつつあるため、類似する活動を行う民間団体と連携し、更に広く市民を対象とした自然環境教育の推進が必要である。 国、県補助など、財政的負担軽減の検討が必要である。 豊富な自然資源を活用したミニツアー、環境ウォーキング等が行われた。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会や各種民間団体と協力のうえ、環境教育活動の積極的な推進を図る。 国、県等の補助金の活用や民間団体との連携を図り、市の財政的負担の軽減を図る。

担当部局		農政部	
施策	七次総合計画における検証(成果や課題)		今後の方向性
2	緑あふ れる 空間の 創出	<ul style="list-style-type: none"> 林業と建設業との協働による森林づくりによる森林施業や森林技術者の育成等をH22～24年の3年間、集中的に支援した。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の林業事業体と同様に林業と建設業との協働による森林づくりを支援し、森林施業や路網整備など森林づくりの取り組みを支援する。

担当部局		基盤整備部	
施策		七次総合計画における検証(成果や課題)	今後の方向性
1	自然環境の保全	・みどりの保全契約や里山の購入により、無秩序な開発を抑制し、緑地の保全が図られた。	・市街地からの緑の眺望を確保するよう里山の購入等を進める
2	緑空間の創出	・緑と親しむ日などに実施したイベントを通じ緑化意識の向上が図られた。	・より多くの市民に自然とふれあう場の提供を行う。
3	自然を大切に活かし続けた	・観光客の多い市街地周辺の河川で草刈り、清掃、美化業務の委託を実施することで、市民のみならず観光客にも良好な河川環境を提供するとともに、高山市のイメージアップが図られている。 ・今後も河川環境を保全し、水に親しむ場の整備を行うため、地元団体と協働して継続実施する必要がある。	・引き続き、河川清掃を実施することで、市民のみならず観光客にも良好な河川環境を提供し、水と親しむ場の整備を行って、高山市のイメージアップを図る。

担当部局		教育委員会事務局	
施策		七次総合計画における検証(成果や課題)	今後の方向性
1	自然環境の保全	・文化財指定されている天然記念物の保護保存が図られた。	・文化財の保護は永続的なものであり、今後も継続して実施していく。 ・保存計画に基づき、天然記念物の保護を推進し、文化財の保存活用を図っていく。

5 二次評価(企画課、総務課、財政課評価)

課題	今後の方向性
<p>主な課題としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境(生物多様性)の保全に対する市民意識の醸成が十分ではない。 ・自然環境を保全・活用するための各種事業が多数あるが、連携が十分ではない。 <p>といったことが挙げられる。</p>	<p>市民アンケートの結果、施策に対する現在の満足度は高く、今後の重要度はやや低くなっているが、恵まれた自然は高山市の大切な財産であるため、緑の基本計画や生物多様性ひだたかやま戦略に基づき、潤いと安らぎを感じることができる緑豊かな環境の保全・創出・活用に取り組むとともに、生物多様性を保全し、その恵みを将来にわたって享受できる、自然と共生するまちづくりを進めていく必要がある。</p> <p>特に、世界自然遺産、ジオパーク、エコパークの取り組みを通じて、自然の保全と活用について議論を深めていく必要がある。</p> <p>また、小中学生だけでなく、広く市民を対象とした自然環境教育を推進するとともに、関連する各種事業を体系的に整理する必要がある。</p>

6 外部有識者の評価・意見

七次総合計画における検証に対する評価・意見
<p>・検証では、様々な施策や地域のいろいろな団体やNPOの活動や取組により、市民アンケートの結果からも一定の評価は得られたと思う。しかし、企画管理部・市民活動部・環境政策部・農政部・基盤整備部・教育委員会事務局と、多くの部署が絡み連携が十分であったかは懸念される。</p> <p>・人口減少・少子高齢化を踏まえ、日本一広い面積を持つ高山市ゆえ、その多くを占める支所地域の支援や、まちづくり協議会との連携を強化すべきだと考える。</p> <p>・財政負担の軽減や市産材の利用拡大のため「千代田区の森林整備協定」や「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度」の取組は大変有効であり新たな連携も進めるべきと考える。</p>

【参考】基本施策に関連する予算事業の分析・評価(平成27年度事業評価における担当課評価)

関連施策	事業コード	事業名	評価	事業費決算額(千円)	
			点数	H25年度	H26年度
1-ア、ウ、 3-ア、イ、ウ、エ	21850	生物多様性保全推進事業費	70	7,250	7,998
1-ウ	94733	国指定文化財保存修理事業	80	12,172	4,000
1-ウ	94740	市指定文化財保存修理事業	80	3,229	10,076
1-イ、2-アイ	74503	緑地保全推進事業費	60	7,080	15,614
2-ウ	94150	市民憲章推進事業補助金	70	3,000	3,000
2-エ	21805	森林づくり交流推進事業費	60	5,276	3,967
2-エ	53218	緑の保全事業	60	52,512	55,688
3-オ	73100	河川草刈業務委託費	100	15,356	17,422
3-オ	73105	河川清掃業務委託費	100	4,022	4,113
3-オ	73106	市街地河川美化業務費	100	1,351	1,464
3-カ	20905	企画関係事務費(誰にもやさしいまちづくりを除く)	70	8,737	8,442

平均点	H25年度	H26年度
77.27	119,985	131,784